



**BowNow**  
by CloudCIRCUS

＼ チェックリストつき！ ／

# 2024年2月施行 Gmail 新ガイドライン 解説 & 対応について

- 01 CloudCIRCUS/BowNowについて
- 02 Gmail送信者ガイドラインの概要と対応方法
- 03 BowNowの対応
- 04 メール配信者がやるべきことチェックリスト

- 01 CloudCIRCUS/BowNowについて
- 02 Gmail送信者ガイドラインの概要と対応方法
- 03 BowNowの対応
- 04 メール配信者がやるべきことチェックリスト

## クラウドサーカス株式会社(英名: Cloud CIRCUS, Inc.)

資本金	150,000千円
役員	代表取締役CEO 北村健一
取締役	COO 金井章浩 小友 康広
監査役	植松 崇夫
従業員数	302名(社員234名、契約社員・スタッフ68名)※2023年3月末時点
事業内容	デジタルマーケティング SaaS「クラウドサーカス」の開発・販売及び、 デジタルマーケティングに関するコンサルティング・受託業務
本社住所	〒163-0919 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス21F
支店	大阪支店・福岡支店・Iizuka Base

# さあ、顧客を増やそう。



Cloud  
**CIRCUS**

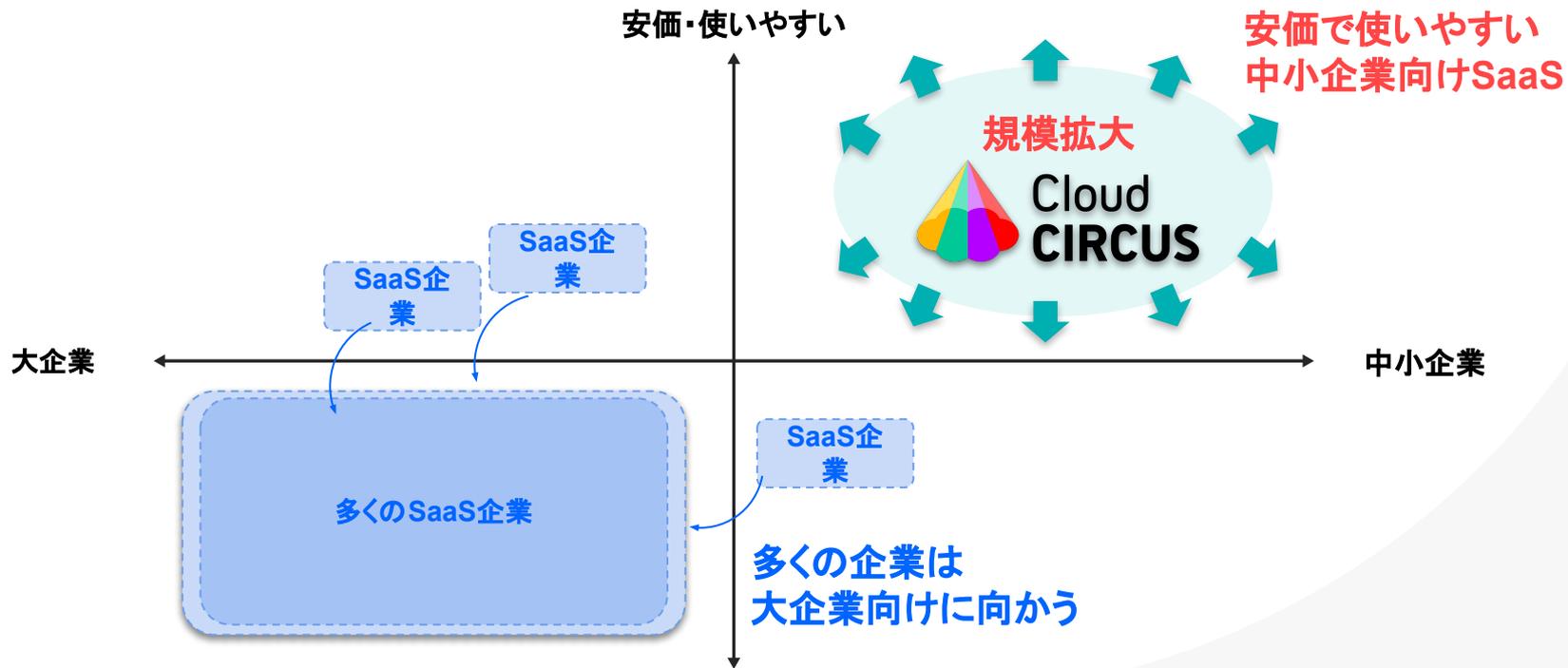
デジタルマーケティングのすべてがここに。



累積導入数  
**51,000**以上

※2021年9月時点

日本の多くの企業と、共に挑戦できる存在へ。





専任担当や専門知識が無くても、使いこなせる、中小企業に丁度良いプロダクト。

全ての商材に共通した思想  
**誰もが使いやすいマーケティングツール**



**BlueMonkey**  
by CloudCIRCUS



**BowNow**  
by CloudCIRCUS



**Plusdb**  
by CloudCIRCUS



**Fullstar**  
by CloudCIRCUS



**IZANAI**  
by CloudCIRCUS



**COCOAR**  
by CloudCIRCUS



**CrowdBooth**  
by CloudCIRCUS



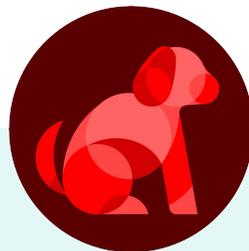
**ActiBook**  
by CloudCIRCUS



**LESSAR**  
by CloudCIRCUS



メールマーケティングも、楽に、成果に繋げてくれる、日本のシェアNo.1 MAツール\*



# BowNow

① 複雑な設定なしで、商談創出を効率化できる

② 導入後すぐに成果が出て、育成活動も開始できる

③ 13,000社以上の支援ノウハウをテンプレート化

④ 200種以上の企業情報が付与できる

ステータス移行条件	1ヶ月に3アクセス	中間CV	アポ獲得	訪問	担当OK	契約		
リードステータス分布	現在	潜在化	アポ獲得	訪問	担当OK	契約		
現在1000以上	373 ▲373	200 潜在化	20 割合	3 アポ獲得	10 訪問	100 担当OK	30 案件化	10 契約
年商1000万	365 ▲365	250 潜在化	30 割合	5 アポ獲得	10 訪問	50 担当OK	15 案件化	5 契約

13,000社の導入で培ったノウハウをシンプルなテンプレートにすることで

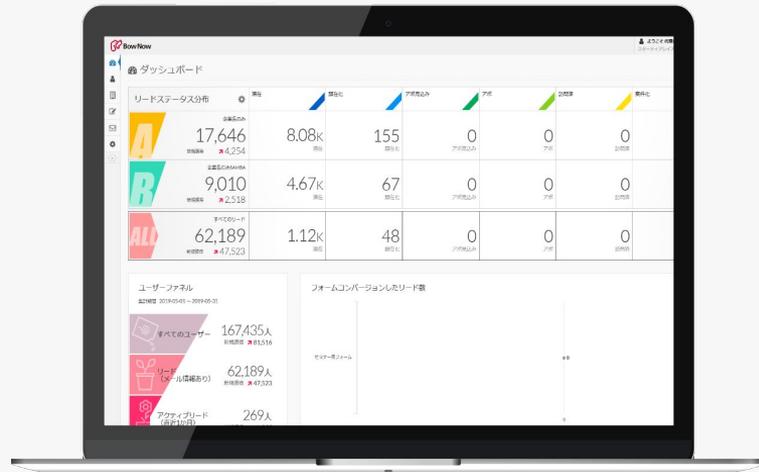
“機能がシンプルで、すぐに使える MAツール”を実現しました！

## 複雑な設定なしで、商談創出を効率化できる

日本のマーケティング現場で本当に使えるツールにするために、  
営業部門もマーケティング部門も使えるシンプルな設計にこだわりました。  
複雑な設定はなく簡単にマーケティング活動を始められます。

## 導入後すぐに成果が出て、かつ中長期的な育成活動も開始できる

中長期的な目線が必要な育成活動に必要な機能を備えつつも、  
即成果に繋げるための、いま「アツイ」ユーザーを見つける機能が豊富です。  
成果を出しつつも中長期的な育成活動に取り組む土台が作れます。



- 01 CloudCIRCUS/BowNowについて
- 02 Gmail送信者ガイドラインの概要と対応方法
- 03 BowNowの対応
- 04 メール配信者がやるべきことチェックリスト

### Googleが「メール送信者のガイドライン」をアップデートした背景

近年メール配信をすることが主流になり、皆様にもたくさんメルマガ等が届いているかと思います。それに合わせて、なりすましメールや迷惑メールも増えてきていることからこれらの対策を強化しようということで Googleが「メール送信者のガイドライン」を発表しました。



#### 年々増加するサイバー攻撃

近年、サイバー攻撃は増加しており、メールのセキュリティがより重要になっています。



#### メール認証の重要性

正規の送信者を認証することで、スパムメールやフィッシング詐欺を防ぎ、信頼性を高めることができます。

2024年2月以降、

**個人用Gmailアカウント**に1日あたり5,000件以上のメールを送信する送信者に対し、

- ①送信メールを認証すること
- ②未承諾のメールまたは迷惑メールを送信しないようにすること
- ③受信者がメールの配信登録を容易に解除できるようにすること

の3つが義務付けられます。

## 対象のGmailメールアドレスは？

下記2点がGmailメールアドレスと呼ばれるもので、  
ガイドラインの宛先の対象となるGmailメールアドレスは①のみとなります。

①末尾が@gmail.comまたは@googlemail.comの個人アカウント

②職場または学校で導入しているGoogle Workspaceのアカウント

(末尾が@gmail.comではない)

## 1 日あたり 5,000 件以上のメールを送信する対象とは？

- ・5,000件のカウントは**個人用Gmailアカウント**が対象

例) [gmail.com](https://gmail.com) / [googlemail.com](https://googlemail.com)

(※企業ドメインのGoogle Workspace アカウントは対象外)

- ・社内外問わず、[xxx@gmail.com](mailto:xxx@gmail.com)宛に送るメールすべてが対象

送信回数(一括配信)や、社内向け、顧客向け問わず1日5000件以上

- ・**自動送信メール**なども対象

システム入力後に自動でメールが飛ぶ設定がある場合なども注意が必要

## ガイドラインの要件を満たさない場合の影響

2点ともに共通して言えることは「受信者に向けて送ったはずのメールが届かない可能性が高まる」ということ。メールマーケティングをしている企業にとっては大きな影響が及ぼされる。



メールの配信が拒否されたり、  
迷惑メールとして分類される可能性が高まる



Gmailへのメール配信の到達率がこれまでより下がる

## Googleがメール送信者に求めるガイドライン

- ① SPF/DKIMの設定を行いメール配信をしてください
- ② IPアドレスに逆引き(PTRレコード)設定を行ってください
- ③ 迷惑メール率を低くしてください(0.1%未満を維持し、決して0.3%以上にならないこと)
- ④ メールフォーマットはInternet Message Format 標準に準ずる形式で作成してください
- ⑤ Gmailではないメールサーバー等から配信する際、Gmail関連のドメイン(例「～@gmail.com」)をFromにしてメール配信しないでください
- ⑥ 転送する際はARCヘッダーを付けてください
- ⑦ DMARCレコードを発行してください。「p=none」の形式でも問題ないです
- ⑧ ダイレクトメールではヘッダFromとEnvelope-From は同じにしてください
- ⑨ オプトイン(配信許諾)が必要なマーケティング目的のメールは、ワンクリックでの登録解除ができるようにしてください

[「メール送信者のガイドライン」で詳細を確認する](#)

## Googleがメール送信者に求めるガイドライン

- ① SPF/DKIMの設定を行いメール配信をしてください
- ② IPアドレスに逆引き(PTRレコード)設定を行ってください

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

同じにならない場合ヘッダFromのドメインで署名したDKIMつけてください

- ⑨ オプトイン(配信許諾)が必要なマーケティング目的のメールは、ワンクリックでの登録解除ができるようにしてください

つまり、内容をまとめると

いくださ

## メール送信者が行うべきこと

- **電子メール認証(SPF・DKIM・DMARC)の設定**
- **メール送信時にTLS接続を行う**
- **迷惑メール率を0.3%以下にする**
- **送信元アドレスは独自ドメインを利用する**
- **メールヘッダに安易に登録解除(ワンクリック解除)ができるリンクを追加**

## メール送信者が行うべきこと

### ①電子メール認証(SPF・DKIM・DMARC)の設定

メール送信認証である**3つ(SPF・DKIM・DMARC)**の設定が義務付けています。

#### ・SPF認証

電子メールの送信サーバIPアドレスが正規のものであることを確認する仕組み

#### ・DKIM認証

メールを送信する際に送信元が電子署名を付け、受信者がそれを検証することで、送信者のなりすましやメールの改ざんを検知できるようにする仕組み

#### ・DMARC認証とは

SPF・DKIMのうち片方でも認証が通らないケースに対し、受信者に拒否させる設定などを行うことで送信者自ら第三者のなりすましを防ぎ、メールの信頼性を高める仕組み

## メール送信者が行うべきこと

### ①電子メール認証(SPF・DKIM・DMARC)の設定

すべての設定を行うことにより迷惑メールに振り分けられる可能性を大幅に減らすことができます。必ず設定することを推奨します。

#### SPF : DNSサーバでの作業

DNSサーバにてメール配信システムから提供されるSPFレコード情報を記述する。

#### DKIM : メール配信システムでの作業 & DNSサーバでの作業

配信システムの管理画面でDKIM署名および鍵を設定する。

DKIMには2つの種類がありますが、原則「作成者署名」の設定が必要です。

#### DMARC: DNSサーバでの作業

DNSサーバにてDMARCレコード(TXTレコード)を登録する。

## ② メール送信にTLS接続を使用する

暗号化通信であるTLS通信の利用を推奨されています。

### ※TLS通信とは

インターネット上のウェブブラウザとウェブサーバ間でのデータの通信を暗号化し、安全に送受信させる仕組み

※SSL通信という同様の通信技術と一緒に記載されることもありますが、

TLSはSSLの進化バージョンにあたる一般的なセキュリティ対策です

### ③ 迷惑メール率を0.3%以下にする

迷惑メールに対する言及は、下記についても開示されています。

#### ▼ 関連部分を抜粋

- ・Postmaster Tools\* でドメインの迷惑メール率を定期的に監視する
- ・迷惑メール率を 0.1%未満に維持し、決して 0.3%以上にならないようにする
- ・迷惑メール率を低く維持すれば、一時的に急上昇してもメールがシステムによって迷惑メールとしてマークされる可能性が低くなる
- ・迷惑メール率が高い状態が続くと、迷惑メールへの分類が増加する
- ・メールの認証確認するために、Gmail アカウントに送信されたメールのチェックを行う
- ・メールの受け取りを承諾しているユーザーにのみメールを送信するようにする

\*Postmaster ToolsはGoogle社が無償提供するGmailアカウント迷惑メール率監視ツール

### ③ 迷惑メール率を0.3%以下にする

迷惑メールに対する言及は、下記についても開示されています。

### 特定電子メール法に準拠する

- ・オプトイン(個人情報取得)が取れているリストに送る
- ・オプトアウト=解除フォーム を必ず設定する
- ・送信者表示(送信者情報・連絡先)を入れる

### その他の有効な方法

- ・リスト内にトラップアドレスがないかチェック する
- ・リストクリーニングを定期的(目安は月 1回)に行う
- ・古いリストや購入リストは別グループで配信をしながらリストを育てていく

### ④ 送信元アドレスは独自ドメインを利用する

Gmail関連のドメイン (例: ○○○○@gmail.com)を送信元アドレスとして大量のリストに対して配信すると **迷惑メール判定**を受けます。今までのガイドラインでも記載されていたので、今後はより厳重に判定がされるようです。送信元アドレスは独自ドメインを利用するようにしましょう。

### 独自ドメインとは

メールアドレスの @以降が gmaill.com など指定ではなく、会社名やサービス名など自由に設定ができるオリジナルのドメイン

## ⑤ メールヘッダに安易に登録解除(ワンクリック解除)ができるリンクを追加

受信者がメールの配信解除を簡単にできることを要求しています。

また、マーケティング目的のメールを送信する場合には、

**メールヘッダに登録解除のリンクをわかりやすく、かつ安易に登録解除ができるリンクを追加** する必要があります。

※安易に解除=ワンクリックで配信解除ができるのが望ましいです。

※営利目的の広告宣伝メールへの オプトアウト=解除フォーム設置 は以前より特定電子メール法で定められています。

※Google基準での“マーケティング目的”の定義やその判別方法は不明

## 対応チェックリスト

- 電子メール認証(SPF・DKIM・DMARC)の設定
- メール送信時にTLS接続を行う
- 迷惑メール率を0.3%以下にする
- 送信元アドレスは独自ドメインを利用する
- メールヘッダに安易に登録解除(ワンクリック解除)ができるリンクを追加

## いつまでに対応をすればいいのか

今回のガイドラインが適用されるのは **2024年2月1日** からです。

ガイドラインの要件を満たさない場合、メールがブロックされたり、迷惑メールに振り分けられたりする可能性が高まり、Gmailへのメール到達率が下がってしまいます。まずは、できることから早めに対応を進めましょう。

- 01 CloudCIRCUS/BowNowについて
- 02 Gmail送信者ガイドラインの概要と対応方法
- 03 **BowNowの対応**
- 04 メール配信者がやるべきことチェックリスト

## Googleがメール送信者に求めるガイドラインに対する「BowNowの対応」

- ① SPF/DKIMの設定を行いメール配信をしてください
- ② IPアドレスに逆引き(PTRレコード)設定を行ってください
- ③ 迷惑メール率を低くしてください(0.1%未満を維持し、決して0.3%以上にならないこと)※利用者自身の対応領域
- ④ メールフォーマットはInternet Message Format 標準に準ずる形式で作成してください
- ⑤ Gmailではないメールサーバー等から配信する際、Gmail関連のドメイン(例「～@gmail.com」)をFromにしてメール配信しないでください※利用者自身の対応領域
- ⑥ 転送する際はARCヘッダーを付けてください
- ⑦ DMARCレコードを発行してください。「p=none」の形式でも問題ないです
- ⑧ ダイレクトメールではヘッダFromとEnvelope-From は同じにしてください
- ⑨ オプトイン(配信許諾)が必要なマーケティング目的のメールは、ワンクリックでの登録解除ができるようにしてください

[「メール送信者のガイドライン」で詳細を確認する](#)

- ① SPF/DKIMの設定を行いメール配信をしてください
- ② 送信するIPアドレスを「full-circle reverse DNS」にしてください
- ③ 迷惑メール率を低くしてください(0.1%未満を維持し、決して0.3%以上にならないこと)
- ④ メールの内容は迷惑メールと見られる恐れのある単語を避けてください
- ⑤ Gmailではないメールサーバー等から配信する際「gmail.com」をFromにしてメール配信しないでください
- ⑥ 転送する際はARCヘッダ「ARC-From」を付与してください
- ⑦ DMARCレコードを発行してください。DMARCレコードの形式でも問題ありません
- ⑧ ダイレクトメールではヘッダFromとEnvelope-Fromは同じにしてください  
同じにならない場合ヘッダFromのドメインで署名したDKIMつけてください
- ⑨ オプトイン(配信許諾)が必要なマーケティング目的のメールは、ワンクリックでの登録解除ができるようにしてください

確実にメール配信を行うために

Googleは

SPF,DKIM,DMARC

の設定を推奨しています

「メール送信者のガイドライン」で詳細を確認する

- ① SPF/DKIMの設定を行いメール配信をしてください
- ② 送信するIPアドレスを「full-circle reverse DNS」にしてください
- ③ 迷惑メール率を低くしてください(0.1%未満を維持し、決して0.3%以上にならないこと)
- ④ メールはGoogleのメール送信者ガイドラインの変更に伴い、  
Gmailではないメールサーバー等から配信する際「~@gmail.com」をFromにしてメール配信し
- ⑤ 転送する際はARCヘッダーを付けてください
- ⑦ **必須にする機能アップデートを実施しました**
- ⑧ ダイレクトメールではヘッダFromとEnvelope-From は同じにしてください  
同じにならない場合ヘッダFromのドメインで署名したDKIMつけてください
- ⑨ オプトイン(配信許諾)が必要なマーケティング目的のメールは、ワンクリックでの登録解除ができるようにしてください

「メール送信者のガイドライン」で詳細を確認する

# 到達率を保ち、安心してメール配信が可能になる機能をアップデート 送信ドメイン認証と独自の機能あり

BowNowは、メール配信を行う際に必要となる、**各種送信ドメイン認証 (SPFレコード・DKIM署名・DMARCメール認証の設定)** にすべて対応しています。

BowNow導入の際には、1,000社以上の送信ドメイン認証の設定を経験してきた専任担当者が、丁寧に設定を **サポート** します。

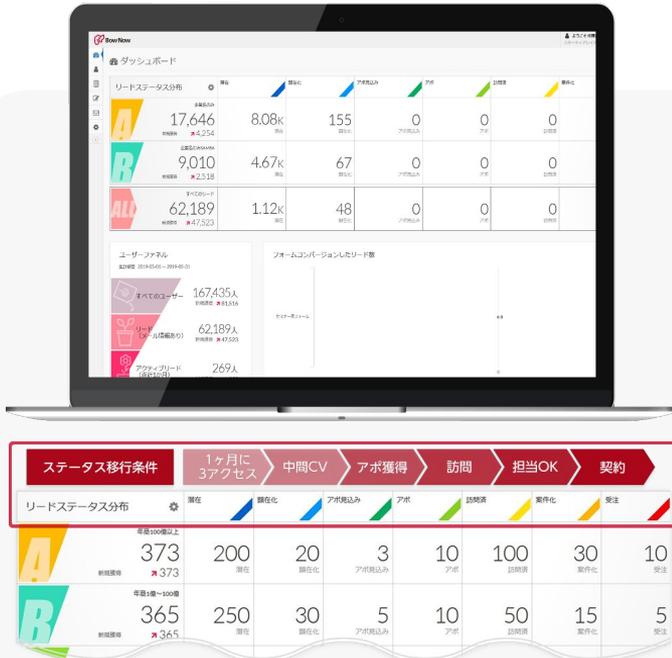
また、その他にも、**メールアドレス存在チェック機能** といった到達率を向上させる機能を搭載しており、より安心してメール配信を行っていただくことができます。



メールマーケティングも、楽に、成果に繋がってくれる、日本のシェアNo.1 MAツール\*



# BowNow



① 複雑な設定なしで、商談創出を効率化できる

② 導入後すぐに成果が出て、育成活動も開始できる

③ 13,000社以上の支援ノウハウをテンプレート化

④ 200種以上の企業情報が付与できる

※DataSign社「Webサービス調査レポート2023.12」[https://oshiete-url.jp/report/docdococo/2023\\_12/](https://oshiete-url.jp/report/docdococo/2023_12/)

BowNow(バウナウ)の資料をダウンロードする



- 01 CloudCIRCUS/BowNowについて
- 02 Gmail送信者ガイドラインの概要と対応方法
- 03 BowNowの対応
- 04 **メール配信者がやるべきことチェックリスト**

- **電子メール認証(SPF・DKIM・DMARC)の設定**
- **メール送信時にTLS接続を行う**
- **迷惑メール率を0.3%以下にする**
- **送信元アドレスは独自ドメインを利用する**
- **メールヘッダに安易に登録解除(ワンクリック解除)ができるリンクを追加**

### いつまでに対応をすればいいのか

今回のガイドラインが適用されるのは **2024年2月1日** からです。

ガイドラインの要件を満たさない場合、メールがブロックされたり、迷惑メールに振り分けられたりする可能性が高まり、Gmailへのメール到達率が下がってしまいます。まずは、できることから早めに対応を進めましょう。



## クラウドサーカス株式会社

社名	クラウドサーカス株式会社
共同代表	北村 健一 CEO 金井 章浩 COO
本社	〒163-0919 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21F
拠点	【大阪支店】 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪 タワーA17階  【福岡支店】 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-10-4 第二博多偕成ビル4階
TEL	0120-919-901
URL	<a href="https://cloudcircus.jp/">https://cloudcircus.jp/</a>
資本金	150,000千円
設立	2021年7月1日
株主	スターティアホールディングスグループ 東証プライム3393 (連結100%子会社)